日本建築学会大会学術講演梗概集
（関東） 2006年 9 月

地域博物館における来館者の利用状況と意向に関する研究
―八戸市博物館を事例として―

正会員　○石川宏之*

地域博物館　利用者　利用圏域
リピーター　ネットワーク　高齢者

１．研究の目的と方法

近年、地域博物館は多くの人々に生涯学習の場として活かされるようになり、地域社会の課題に対処した博物館活動が求められている。これまでの既往研究として博物館の施設規模や職員構成を捉えた研究[1)]や年間利用者数の変化を明らかにした研究[2)]等があげられるが、地域博物館における利用者の属性および意向に関する研究が行われていない。

本研究では、地域博物館を訪れる利用者の属性および意向を捉え、今後の地域博物館計画のための手がかりを得ることを目的とする。

方法として先ず一般利用者の属性を把握し、次に利用者の要望を捉え、最後に各教育施設とのネットワーク形成について明らかにする。調査対象は八戸市博物館[3)]で、2005 年 12 月 10 日～12 月 25 日の調査期間に来館した利用者にアンケート調査を行った。回答者数は 160 人で、その概要は以下の通りである。

表1 回答者の年齢層（単位：人）

	若年層（20～29 歳）	中年層（30～49 歳）	高齢層（60 歳以上）	合計
回答者数	17	80	63	160
割合	11%	50%	39%	100%

２．利用者の属性および意向

２．１ 一般利用者の属性

図１から利用圏域を見ると、博物館を中心として遠ざかる地域ほど利用者数が減少することがわかる。また中央地域の利用者数は、他の地域に比べ多い。そして年齢層から見ると、八戸市の北地域を除く４つの地域はいずれも高齢層の利用者の割合が多いことがわかる。さらに図２から博物館への交通手段を見ると高齢層の利用者は自家用自動車の次にバスを使っている割合が大きい。これらのことから高齢層の利用者は、交通手段であるバスによるアクセスの良し悪しによって影響されると考えられる。

次に図３から利用回数を見ると今回初めての来館者が多い。また４回以上の利用者数は 67 人となっており、利用者の全体の約４割がリピーターである。そして年齢層から見ると、高齢層の利用者は利用回数を重ねるたびに利用者の割合が大きくなる。このことから、

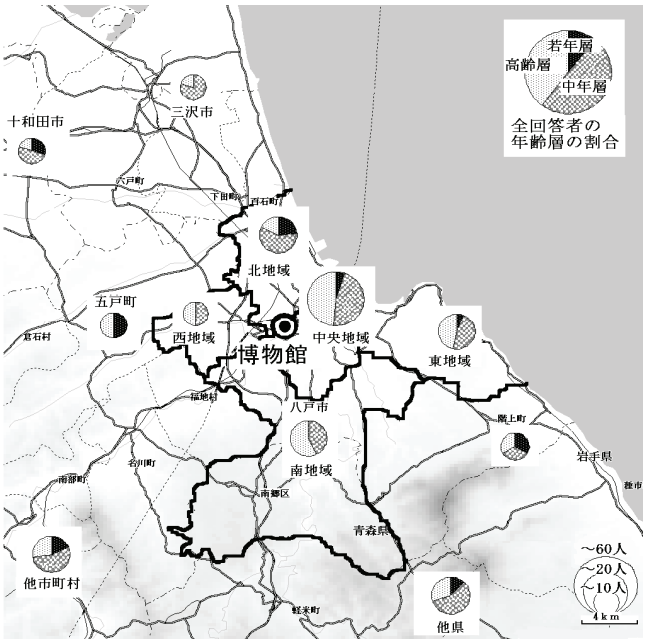

図1 利用者の利用圏域
※円の大きさは博物館に訪れた利用者数を表す。

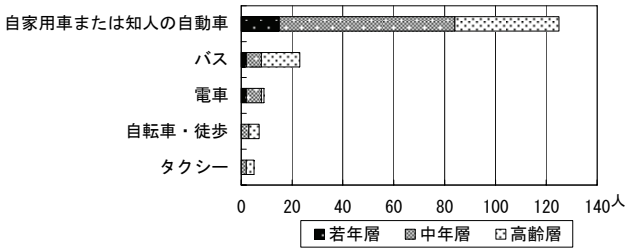

図2 博物館への交通手段

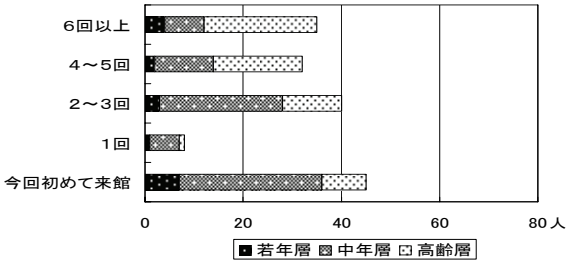

図3 博物館の利用回数

リピーターの多くが高齢層の利用者であるとわかる。一方、若年・中年層の利用者は初めて来館する割合が他の回数に比べ多いが、利用回数を重ねるたびに利用

A Study on the Users' Conditions and the Intention at the Local Museum
-A Case Study of the Hachinohe City Museum-
ISHIKAWA Hiroyuki

者数の割合が小さくなる。

以上のことから、高齢層の利用者になるにつれてリピーターにつながることが考えられる。また、若年・中年層の利用者をリピーターにするための魅力づくりが求められる。

２．２ 利用者の要望および意向

図４から来館にあたっての要望を見ると、常設展示・史跡根城の宣伝や誘導のための案内標識に関することが最も多い。また、年齢層から見ると若年・高齢層の利用者は常設展示・史跡根城の宣伝を占める割合が大きい。さらに、若年層の利用者は誘導のための案内標識を占める割合が大きい。このことから、博物館までのアクセスルートが不明確で、若年層利用者が来館する障壁となっていると考えられる。

以上のことから、常設展示・史跡根城の宣伝方法の仕方や誘導のための案内標識を増やすことにより、来館のきっかけを多くつくることが求められる。

次に図５から施設面の要望を見ると参加・体験型の展示が最も多く、続いて軽食を取れるレストラン、図書室の設置という回答が多い。また年齢層から見ると高齢層の利用者はレストランの設置と創作講座の作品を展示できるコーナーの設置という回答が多い。一方、若年・中年層の利用者では、参加・体験型の展示やミュージアムショップを設けてほしいという回答が多い。

以上のことから、高齢層の利用者は、休憩できるレストランや博物館における創作活動に関心があると考えられる。また若年・中年層の利用者を増やすには、参加・体験できる展示やミュージアムショップを設け、楽しめる場づくりが必要と考える。

２．３ 各教育施設とのネットワーク形成

図６からネットワーク形成の要望について見ると、博物館をはじめ各教育施設で各館の展示や催しを紹介するコーナーの回答が最も多い。年齢層から見ると高齢層の利用者はバスで各教育施設を巡るツアーと各施設で地域遺産に関するフォーラムを開催の回答が多い。

以上のことから、バスによるツアーの企画を組むことによって、アクセス手段がない高齢層の利用者を増やすことができ、フォーラムを催すことで地域遺産への関心を持たせ、積極的に市民参加を促せる。また、各教育施設を利用するための導入的な場所を設けることによって、若年・中年層の利用者を確保するとともに、各教育施設の利用を促進させることが考えられる。

３．まとめ

これまで地域博物館の利用者の属性および意向を見

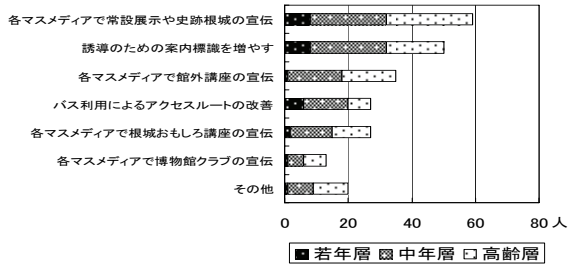

図4 来館にあたっての要望

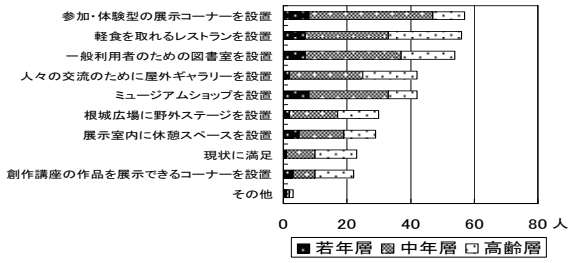

図5 施設面への要望

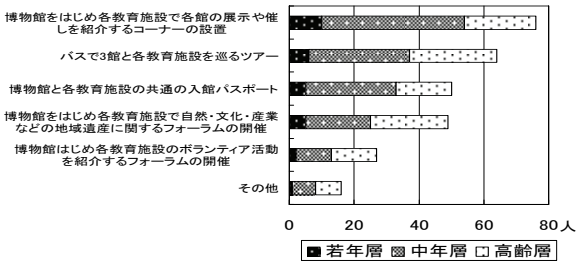

図6 ネットワーク形成の要望

てきて３点が指摘できた。

①博物館に近い地域ほど利用者数が多く、高齢層の利用者は公共交通によるアクセスの良し悪しに影響された。またリピーターの多くが高齢層の利用者であった。

②若年・中年層の利用者をリピーターにつなげるためには参加・体験型の展示やミュージアムショップなど楽しめる場を設けることが必要である。

③バスによるツアーやフォーラムなどを他館と共同で開催することで高齢層の利用者を確保し催し物等での連携が重要である。

謝辞　本研究をまとめるにあたり風穴健吾君（元八戸工業大学卒業研修生）に担うところが大きい。ここに記して感謝の意を表する。

補註

１）野村東太・池田千春・柳沼良一：全国博物館の運営・施設の一般的状況　博物館に関する建築計画的研究１，日本建築学会論文報告集，第 353 号，pp50～56，1985.7.

２）仙田満・矢田努・池田誠・五嶋崇：歴史博物館における年間入館者数の経年変化に関する研究，日本建築学会論文報告集，第 517 号，pp139～144，1999.3.

３）選定理由として、青森県八戸市の地域の風土・特性を活かし、市民参加が行われている地域博物館だからである。

*八戸工業大学工学部建築工学科講師 博士（工学）

*Lecturer, Dept.of Architectural Engineering, Faculty of Engineering, Hachinohe Institute of Technology, Dr. Eng.